

会派視察報告書

報告者：藤本勘寿

会派名	改新クラブ・NEXT
視察者名	中鉢和三郎・鹿野良太・加川康子・藤本勘寿
視察日	令和7年5月23日（金）
視察先	山形県高畠町役場企画課企画調整係
テーマ	高畠町デュアルスクールについて
講師	南波幸子係長・高橋瑞基主事

1. 視察内容

（1）デュアルスクールとは

- 現行の学校教育制度では、2つの学校に籍を置くことは認められていない。「デュアルスクール」では、「体験入学型」というかたちをとることで、都市部に住民票を置いたまま別地域の学校に通学することを可能とした。その就学期間は出席日数としても認められる

（2）デュアルスクール事業を始める背景

- 高畠町ではこれまで、国の地方創生交付金等を活用し、首都圏の大学などから受入を実施しており、町外からの学びの受入環境がある程度整備されていた
- 町内では少子化の影響から、小学校ではクラス替えがなく、多くの子どもと触れ合う機会がないという問題も表面化。これに対応し、交流人口の増加に寄与するために、徳島県で先行事例のあった「デュアルスクール事業」に東北地域で初めて取り組むことを決定
- 令和4年度よりデュアルスクール事業の仕組みを構築。令和5年度よりデジタル田園都市国家構想交付金を充当し事業を実施。令和5年度事業費は3.3百万円、同6年度の事業費は2.5百万円

（3）デュアルスクール事業実施にあたっての課題

- 受入する家族の状況は十人十色であり、個々に沿った対応が必要となる
- 受入する町内の学校、所属学校との連絡調整、各家庭との調整、宿泊先の選定など、関係機関が多岐にわたりそのやりとりが煩雑
- 持続的な財源、マンパワーの確保
- デュアルスクールを実施した「その後」の目標設定。交流人口の増加、移住者の増加、二地域居住の実現

2. 所見

居住の流動性は高まる昨今、子どもの学びの環境は居住地を選択する上で重要な要素となる。本事業は、新たな選択肢として研究すべきである一方、財源・マンパワー等の要因から、持続的な事業とするためには町全体での気運情勢が求められることを感じた。

会派視察報告書

報告者：藤本勘寿

会派名	改新クラブ・NEXT
視察者名	中鉢和三郎・鹿野良太・加川康子・藤本勘寿
視察日	令和7年5月23日（金）
視察先	山形県天童市教育委員会生涯学習課
テーマ	学習支援室「リバテラスちえふる」について
講師	押野一貴課長・澁江隆由課長補佐

1. 視察内容

（1）「リバテラスちえふる」とは

- 中高生をはじめとする市民が自主的に学習する為の施設を整備することで、青少年の健全育成および市民の生涯学習の振興に寄与することを目的として、平成25年5月に天童駅前の施設に開設された学習支援室
- 最大定員は60人で、施設利用料は無料。自主学習を行うためのスペースの提供のほか、主に大学生の有償ボランティアによる中高生に対する学習支援も実施
- これまで、施設の設置、リニューアルに伴う整備費用として約31.0百万円を計上。そのほか指定管理委託料を毎期計上。令和6年度の指定管理委託料は33.1百万円
- 令和4年度以降の年間利用者数は1万人を超えており、令和6年度の利用者数は過去最高の17,305人

（2）今後の課題

- 学習支援室内に加えて施設内には、終日利用する方が昼食等間食のできるスペースがない。現状は施設3階のロビーを開放することで対応
- 学習指導に係る人材の確保が困難であり、現状は求人広告を出すことで対応中

2. 所見

旧古川市と同規模の自治体である天童市であるが、天童市内の図書館はリニューアル工事未済であるなど、青少年の学習をする場は充分とは言えない。この背景に加えて、天童駅前に市で保有する施設の有効活用の観点から整備された「リバテラスちえふる」であるが、利用者数は年々増加しており、最大定員60人に対して1日当たり平均50人の利用があるなど、市民には一定の需要があることがわかる。但し、学習支援は大学生のボランティア頼みであり、彼らに対する謝礼は「1,000円/時間」など、一般的な塾のアルバイト料と比較しても低い水準であることは課題。支援室内に置かれている参考書は寄贈されたものであるとのことであったが、学習要項が比較的短期で代わる昨今、古い参考書が残置している点も改善の余地があるように感じた。